

平成 25 年度点検評価報告書作成の経過について

月 日	作成経過
6 月 25 日	教育委員との第 1 回打合せ及び WG 第 1 回打合せ ・平成 25 年度実施方法の検討
6 月 25 日～7 月 31 日	事業担当課による点検評価表の作成
8 月 6 日	WG 第 2 回打合せ ・点検評価表の読み合わせ
8 月 7 日～8 月 20 日	報告書（素案）の作成
8 月 27 日	学識経験者との第 1 回会議 ・実施方法及び報告書（素案）の説明、意見聴取
8 月 28 日	教育委員との第 2 回打合せ ・報告書（素案）の検討
8 月 29 日～9 月 4 日	報告書（案）の作成
9 月 10 日	WG 第 3 回打合せ ・報告書（案）の読み合わせ
9 月 27 日	教育委員との第 3 回打合せ ・報告書（案）の検討
10 月 1 日	学識経験者との第 2 回会議 ・報告書（案）の説明、意見聴取
10 月 2 日～10 月 18 日	報告書の調製 ・WG での調整
10 月 31 日	教育委員会 ・報告書の決定
(今後の予定) 12 月初旬	市議会定例会 ・報告書の提出、公表

教育委員及び学識経験者等からの意見への対応について

1 昨年度の点検評価の意見のうち、今年度以降の課題とした意見への対応について

	意 見	対 応
①	「教育委員会による点検及び評価」が担当課による評価の箇条書きになっている。計画目標に対する全体的な評価を掲載するのか、個別事業についての特記事項を掲載するのか、掲載内容を検討する必要がある。	全体的な評価は3段階評価（ABC）で表しているため、「教育委員会による点検及び評価」の記載は、計画目標に取り込まれた個々の事業の中でも特に記載すべき事項を掲載した。
②	目標値は、前年の数値を用いている事業や過去3年の平均値等を用いている事業等、バラバラで読みにくい。特に前年との比較が必要なものを除いて、基本的に過去3年間の平均値に統一したらどうか。	特に前年度との比較が必要な事業や計画値（定数）のものを除いて、過去3年間の平均値に統一した。
③	補助金のように数値の増減がない事業、予算に縛られる事業など、評価しにくい事業もある。数値的には計画通り実施したということで○評価で統一するか、別記号を用いて区別することができればいいのではないか。	事務の手法の改善や市単独補助金のように継続することが重要な事業もあるため、数値に表れない成果・事務の改善等があれば、文章で記載し、他の事業と同様に評価した。
④	点検評価方法についてはある程度習熟してきているため、今後はワーキンググループ（WG）を活性化させ、担当部分以外についても読み合わせて議論するなどすれば、より分かりやすいものができるのではないか。	点検評価表作成及び報告書（案）作成の各段階でWG会議を開催し、読み合わせや意見交換を行うなどWGの活性化に努めた。
⑤	達成状況の評価について、教育プラン後期計画の総括として過去5年間分の評価状況（◎○△）についても掲載すれば分かりやすいのではないか。	教育プラン後期計画の総括として、平成25年1月策定の「八戸市教育振興基本計画」の中で、教育プラン後期計画の実施による成果と今後解決すべき課題を示した。
⑥	重複事業であっても、元になる基本目標・計画目標等が異なっている。それぞれの目標ごとの評価方法があるはずで、安易に重複・再掲とすることは避けるべきではないか。	重複事業であっても基本目標、計画目標が異なるため、安易に再掲とせず、それぞれの目標にそった評価を行った。

2 今年度の点検評価における意見への対応について

(1) 報告書に反映させた意見

	意 見	対 応
①	点検業務におけるWGの役割は大きい。イメージ図にWGの位置付けを入れるべきである。また今年度の改善内容に、WGの活性化を入れた方がよい。	イメージ図（3枚目）の中に「WG会議」の位置付けを加えるとともに、「これまでの『教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価』概要」（57P）に、今年度の改善内容として、WGの活性化について記載した。
②	当初の計画になくても新しい課題の検討を始めた、きちんと判断した上でカットしたりした分野があれば、評価のポイントとなるため、評価の理由に盛り込むべきである。	新しい課題への対応について、評価の理由に記載を加えた。 （事業番号 83 食育の充実 「夏期研修会の開催」：食物アレルギーへの対応）
③	担当課の点検評価で内容が前年度と全く同じものがあるが、何か1年間の間に行われているものがあるはずであり、記載すべきである。	記載内容が前年度と全く同じ事業については再度見直しを行い、前年度の点検評価の反映状況や新しい課題等を記載するようにした。

(2) 次年度以降の課題とした意見

	意 見
①	今後のWGの活性化 今年度、WG会議の位置付けを明確化したことで、現場の主体性が明確化された。また学識経験者会議にWGメンバーが出席したことでコミュニケーション体制の強化が図られた。来年度以降、WG会議の提案で実施された事項がこの報告書に盛り込まれることを期待する。
②	点検評価の主目的の明記 「I点検及び評価制度の概要」（1P）に八戸市教育委員会としての点検評価の目的を明記すべきである。法律で義務付けられているからというだけでなく、もっと積極的にとらえるべきである。自己点検は主体的に行うものである。
③	適切な評価基準の検討 各事業目的に対する適切な評価基準（値）を検討すべきである。事業によっては目的に対するプラン（計画）や担当部署の変更、拡大等の検討も必要である。また、数値目標以外の評価基準を検討すべきである。数値目標の評価だけで済むものは少ない。
④	△及びC評価の位置付けの事前検討 △評価が付いたときや「教育委員会による体系別点検及び評価」でC評価が付いたときどのような対応をとるか（改善、廃止等）、事前検討した上で評価を行うべきである。そうでないと、対応がつかないままほったらかしになりかねない。
⑤	「今後の課題」の記載 「今後の課題」をどのように書いていくかが、この報告書の神髄である。△○は見直し、改善を検討すべきである。○◎はどこがよかったか、もっとよくなるのではないかとという視点をもつことが必要である。そこから新しい提案や新規事業等の可能性も出てくる。
⑥	市民にわかりやすい報告書 市民が読みやすい報告書、わかりやすい報告書になるよう検討すべきである。今回の報告書は教育プラン後期計画に基づいて作られているが、後期計画を見ていない人がこの報告書だけ見てもわからない。そこで、例えば「基本目標」や「計画目標」にプランの内容を数行程度入れておくとわかりやすくなると思う。将来的には、最初のほうに「点検及び評価概要」という項目を入れて、報告書の内容がある程度わかるような形が望ましい。